

Q. 帰国生に対する入学後のクラス配置・授業体制は一般生（国内生）と異なっていますか。

A. クラス編成・授業体制については、基本的に一般生と区別はしません。2020 年度の中学 1 年生の入学人数は 252 名ですが、そのうち帰国生入試を経て入学した生徒は 40 名です。ちなみに、他学年の帰国生数は次のとおりです。中学 2 年：44 名、中学 3 年：47 名、高校 1 年：50 名、高校 2 年：44 名（注・数字はそれぞれ入学時のもの）。

Q. 帰国生に対する英語の授業は一般生（国内生）と異なっていますか。

A. 本校では週 7 時間ある英語の授業のうち、リーダーの 4 時間については希望者を対象とした「取り出し授業」を行います（※2020 年 4 月時点で、高 1 で 33 名、中 3 で 29 名、中 2 で 31 名、中 1 で 32 名の生徒たちが参加しています）。「取り出し授業」は専属のネイティブスピーカーが担当し、その授業レベルは中 1 段階で米国現地校の 7th grade 程度であるとお考えください。その他に学校として登録している「e ラーニング」学習システムがあり、英語の得意な帰国生は、学校や自宅で、自己の能力とペースに応じて英検準 1 級までの自学自習が可能です。

Q. 帰国生に対してキャッチアップとしての補習授業を行っていますか。

A. 各学年において、学習が遅れがちな生徒のための指名制補習授業（英語・数学）を年間を通して行っているため、教員が必要と判断した場合は（一般生とともに）受講する必要がありますが、帰国生それぞれの学力に合わせて随時個別指導は行います。なお、2018 年度より、国語に不安のある帰国生に対しては、希望者を対象に特別補習を開始しました。

Q. 帰国生が入学後、彼らを指導する上でもっとも気をつけていることは何ですか。

A. 海外の文化に触れてきた帰国生と一般入試で入学してきた生徒は、価値観の違いから摩擦が起こることもあるかもしれません。しかし、本校では、あくまでもお互いを認め合うという視点からすべての出来事に対応します。また、帰国生が抱える悩みに対しては、それがごく小さいものであっても、決してそのサインを見落とすことがないように細心の注意を払いたいと考えています。

Q. 在外経験生徒の進学実績を教えてください。

A. 帰国生入試の開始学年は現在の大学 1 年生（※入学時帰国生数は 19 名）ですが、一橋大学、東京工業大学、東北大学、筑波大学、東京外国語大学その他、早稲田大学、慶應義塾大学、上智大学など大変優れた進学実績を残してくれました。

Q. 「編入保証」とは、どのような制度ですか。

A. 本校では、帰国生入試に合格し、入学式及び入学直後のオリエンテーション期間に出席すれば、その後再び海外に戻った場合でも、原則として元の学年に随時戻れるように対応しています。つまり、海外からの帰国時期が中学入学の段階でまだ決定していない場合でも、1 月上旬の帰国生入試前後と 4 月上旬における入学式からのオリエンテーション期間に一時帰国していただければ、その後の 6 年間は本校生としての資格があるということになります。

Q. 帰国生が入学するにあたって、事前にしっかり認識しておいてほしいことは何ですか。

A. 本校では、希望者への取り出し授業や放課後の個別対応はしっかりと行いますが、帰国生のための特別クラスを設けてはおりません。少年期・青年期のきわめて大切なこの6年間を、本校独自の中高一貫プログラムでぜひ学んでみてください。

Q. 帰国生に望む「海外で学んできてほしいこと」は何ですか。

A. 海外経験豊かな生徒たちと同じ教室に学ぶことは、一般生にとって海外に留学することと同等の異文化体験となり得ます。日本国内で常識とされていることが、海外へ出ると全く通じないこともあるでしょう。帰国生にはそういった経験をたくさん本校に伝えていただきます。日々の学校生活を通じて恒常的に教室内が活性化し、良い意味での「化学反応」が起こることを、本校は強く期待しています。

Q. 帰国生やその家族に伝えたいことがありますか。

A. 本校は2014年度より帰国生入試を導入しました。できるだけ多様なバックグラウンドをもった帰国生が受験できるように、受験資格や入試科目、日程の部分を十分に配慮しております。帰国生が入学後に大きなストレスを感じることなく楽しい学校生活を送れるように、中学生の指導に関して経験豊富な教員たちが、責任を持って帰国生の指導にあたります。どうぞよろしく願いいたします。

Q. 帰国生が入学するにあたって、必ず喜んでもらえそうなことは何ですか。

A. ① [科学実験] 中学では通常の授業の中に実験が毎週1回あり、高校で理系に進んだ場合には、化学+物理あるいは化学+生物で、1年間に約20テーマにおよぶ実験があります。実験は1クラスを半分に分けての少人数で実施され、その都度必ず記述式レポートの提出をすることがすべての生徒に義務付けられています。実験のための設備や器具も大変充実しています。また、丁寧な個別添削指導を行います。

② [補習・講習・学習合宿] 中1から高3まで、英・数を中心として「基礎」と「応用」に分けた平常補習や講座があります。また、夏期・冬期・春期の長期休暇中にはさらに講座が細分化され、特別な授業が組まれます。帰国生は、それぞれの実力に合わせて多くの講座の中から選ぶことが可能です。その他に、高校では夏期休暇中の学習合宿もあります。

③ [自習室] 放課後、1階のカフェテリアを自習室として開放しています。ここには、東京大学の学生がチューターとして常駐し、希望する帰国生にも個別の学習をサポートします。また、勉強のこと以外でも生徒たちの多様な相談に乗ってくれています。(※但し、2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一時的に閉鎖しています。)

Q. 帰国生に対しての具体的な受験準備のアドバイスをお願いします。

A. いわゆる「難問・奇問」の出題は一切ありません。どの教科もたいへんオーソドックスな出題傾向であるとお考えください。基礎力の強化を常に意識しながら過去問を繰り返し解き、本校の問題に慣れておくことが大切です。

Q. 帰国生入試と一般入試の問題は同じですか。

A. 同じではありません。

※ ちなみに、A方式とB方式の算数並びにA方式 [国語型] とB方式の国語の問題は同一問題です。

Q. 帰国生入試問題のレベルはどれくらいでしょうか。

A. 小冊子「T-file」の巻末に、2020年度入試問題の小問別正答率が示されています。帰国生入試において国語・算数・社会・理科の4科目については、本校の一般入試と比較して、より難易度の低い問題が出題されています。一方、英語の問題は、大体、英検準1級レベルです。また、リスニングや英語による面接はありません。

Q. グローバル入試と帰国生入試とでは、どんな点が違いますか。

A. グローバル入試の受験には、海外在住経験を必要としません。また、英語については「英検準2級レベルを中心とした出題」であるため、帰国生入試よりも易しく作問されていますが、グローバル入試の算数は一般入試と同一問題です（※帰国生入試・A方式を受験する場合は、グローバル入試の出願も視野に入れていただくことをお勧めします）。

Q. A方式【国語型】の合否判定方法について教えてください。

A. A方式の国語型受験生は、「英語・算数の合計点」または「国語・算数の合計点」のいずれかが、それぞれ設定した合格最低点に達した場合、合格となります。但し、「英語・算数の合計点」での合否判定には、国語に基準点を設けます。

Q. A方式【作文型】の「作文（日本語）」はどのように評価されるのですか。

A. 作文は、他の受験科目とは違い、細かく100点満点の点数を付けることができません。これはあくまでも、ごく普通の日本語運用能力があるかどうかを判断するための指標です。評価は、3段階の「段階評価」とし、多くの受験生には「B」評価、きわめてよく書いている場合は「A」評価、そして、日本語として成立していないと見なされる場合のみ「C」評価となります。

Q. B方式の2教科型と4教科型は、どのような区別があるのですか。

A. 合否の判定は、まず、4科・2科の受験生すべてを国語・算数の2科目の合計点のみで行い、次に、その合格者を除いた受験生の中から、国・算・社・理の4科の合計点で合格を出すことになっています。したがって、2科受験でももちろん結構ですが、社・理に不安がある受験生の場合でも、取り敢えず、4科受験をしておいた方がチャンスは多いと言えます。

Q. 「面接」について詳しく教えてください。

A. 2021年度帰国生入試においては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、保護者同伴で行われていた面接を中止します。

Q. 帰国生入試と一般入試の手続きは別々にしなければいけないのですか。

A. その必要はありません。12月1日から始まる帰国生入試の出願期間中に一度出願をしていただければ、同じ受験番号を使って2月1日から始まる一般受験（※グローバル入試を含む）を4回とも受験することが可能です。但し、その場合は、1月10日の9時以降に改めてインターネット出願のページにログインして、受験する入試回等を入力し、改めて一般入試・グローバル入試の受験票を印刷してください。

Q. 複数回受験者に対する優遇措置において、帰国生入試も回数としてカウントされますか。

A. はい、カウントされます。一般入試・グローバル入試を含む複数回受験者に対しては、次のような優遇措置があります。

1. 加点措置について

複数回受験者の加点措置については、一般入試の第3回入試と第4回入試の得点（350点満点）において行い、I類の可否の判定のみ適用します。

・ <第3回入試の加点措置>

一般入試（帰国生入試・グローバル入試を含む）を3回以上受験した場合は3点加点

・ <第4回入試の加点措置>

①一般入試（帰国生入試・グローバル入試を含む）を3回受験した場合は3点加点

②一般入試（帰国生入試・グローバル入試を含む）を4回以上受験した場合は5点加点

2. 繰り上げ合格について

繰り上げ合格については、複数回受験者を優先します。

Q. 帰国生入試にも、II類とI類の選択はありますか。

A. 受験生には、願書提出時にII類、I類のどちらかを選択していただきます。また、帰国生入試にも一般入試と同様に、スライド合格システムと逆スライド合格システムがあります。なお、帰国生入試でI類に合格した場合は、合格の資格を有したまま、II類を目指して一般入試を受験することができます。（→再チャレンジ受験システム）

Q. 入試当日、保護者は校内で待機することはできますか。また、昼食の準備は必要ですか。

A. お子さまが試験を受けている間、保護者の方は校内に用意された控室にてお待ちいただくことが可能です。なお、2021年度帰国生入試では面接を実施しないため（＝筆記試験は午前中に実施するので）、入試当日の昼食を準備していただく必要はございません。

Q. 試験時間中に、保護者は校外へ出ることはできますか。

A. 試験中、保護者の方は自由に校外へ出ることができます。また、近隣にはコンビニなどいくつかの店舗がありますが、車の駐車は絶対になさらないようお願いいたします。

Q. 試験が終了したら、すぐに帰宅してもよいのですか。

A. A方式及びB方式の2教科・4教科とも、試験が終了し次第、お帰りになって結構です。試験会場ごとに係の者が、控室あるいはエントランスまで順番にお子さまを誘導します。お帰りの際は、お忘れ物のないようにくれぐれもお気をつけください。

（ 以 上 ）